

すべての人に恐れが生じた。使徒たちによって多くの不思議な業とされるしが行われていたのである。信じた者たちは皆一つになって、すべての物を共有にし、財産や持ち物を売っては、必要に応じて、皆がそれを分け合った。そして、毎日ひたすら心を一つにして神殿に集まり、家ではパンを裂き、喜びと真心をもって食事を共にし、神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加えてくださったのである。（使徒2：43～47）

五旬祭の日、集まっていた弟子たちに、主イエスが約束しておられた神からの聖霊が降った。弟子たちは聖霊に押し出され、主イエスに起こった「神の偉大な業」について語り出した。著者ルカは、ペトロの説教として詳しく書いている。力ある業を現わしておられた主イエスを、ユダヤ人たちは異教徒に売り渡し、十字架につけて殺した。しかし、主イエスは復活し、天に昇り、神の右に座られた。ペトロは「あなたがたが十字架につけたこのイエスを、神は主とし、メシアとなさったのです」と、核心メッセージを告げた。人々は、自分たちが殺したイエスは主、メシアであると聞いて、「兄弟たち、私たちは何をすべきでしょうか」と問うた。ペトロは、悔い改め、洗礼を受け、罪の赦しをいただきなさい、そうすれば、聖霊の賜物を受けるでしょうと答えた。人々は、聖霊の導きによって、主イエスに現わされた救いの恵みを、ペトロの説教を通して、感動をもって受け入れた。ナザレのイエスをメシア・キリストと信じ、心と言葉が通じ合える信仰共同体ができた。この日、洗礼を受けた人は3千人ほどもいたと書かれている。聖書は数字に関しては、大まかで正確でないことが多いが、多くの人々が信仰と愛に燃え、最初のエルサレム教会が誕生した。この教会から神の救済史へと繋がっていくのである。

著者ルカは、聖霊によって誕生したエルサレム教会での信徒たちの生活を、5つの事例で紹介している。①「すべての人に恐れが生じた。使徒たちによって多くの不思議な業とされるしが行われていた。」突然、イエスを信じる教会が誕生したこと自体、不思議なことであったが、使徒たちが主イエスと同じように病人を癒やし、悪霊に悩まされている人を解放する不思議な徴を行ったので、人々の間で恐れが生じた。それは、神が共におられるという畏れであった。②「信じた者たちは皆一つになって、すべての物を共有にし、財産や持ち物を売っては、必要に応じて、皆がそれを分け合った。」信者たちは持っていた財産や持ち物を売って、必要に応じて皆で分かち合った。共有制の原始共同体を形成した。これを可能にしたのは、主イエスの再臨による終末は近いという信仰であった。③「毎日ひたすら心を一つにして神殿に集まり、家ではパンを裂き、喜びと真心をもって食事を共にした。」ナザレのイエスをメシア・キリストと信じる信仰に立って、心は一つに結ばれていた。人々は神殿に集まったことから、共同体は神殿と結びついたユダヤ教イエス派と見なされた。家では、ガリラヤで主イエスとパンを裂いて食べた愛餐会を喜びと真心をもって共にした。この愛餐会が、後に聖餐式として、主イエスの死を記念する式典になっていった。④「神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。」神に向かって賛美を捧げる敬虔な信仰はユダヤ人から好意をもって受け入れられた。⑤「主は救われる人々を日々仲間に加えてくださった。」主イエスに倣う愛に生きる群れは、日々、仲間に加わる人で満ちていった。信仰に燃えるエルサレム教会の姿を生き生きと伝えている。